

就職

結婚

妊娠

女性のための ライフプランニング

6月28日、住吉会館ルピナスで、西東京市男女共同参画週間事業として「婚活」の提唱者である白河桃子さんの講演が行われました。仕事と結婚、妊娠、出産といったキーワードを通して、これからの女性の生き方を考えるための貴重なお話が伺える機会となりました。



Profile

白河 桃子 (しらかわとうこ)
少子化ジャーナリスト、作家、相模女子大客員教授
経産省「女性が輝く社会の在り方研究会」委員
東京生まれ、慶応義塾大学文学部社会学専攻卒業
婚活、妊活、女子など女性たちのキーワードについて発信する。山田昌弘中央大学教授とともに「婚活」を提唱。婚活ブームを起こす。女性のライフプラン、ライフスタイル、キャリア、男女共同参画、女性活用、不妊治療、ワークライフバランス、ダイバーシティなどがテーマ。
「婚活バイブル」共著者、齊藤英和氏(国立成育医療研究センター不妊診療科医長)とともに、東大、慶応、早稲田などに「仕事、結婚、出産、学生のためのライフプランニング講座」をボランティア出張授業。講演、テレビ出演多数。
著書：『女子と就職 20代からの「就・妊・婚」講座』『婚活バイブル晩婚・少子化時代に生きる女のライフプランニング』『婚活症候群』最新刊『産むと「働く」の教科書』

「産む」と「働く」のための 4つのハードルを越える

現在、産みたい・働きたいという女性は大勢います。ところが「産む」と「働く」という生き方を実現させるまでには、4つのハードルがあります。

ハードル1 産める体の メンテナンスと 正しい知識

第1のハードルは、知識不足です。高校の保健体育で習っているはずなのですが、女子大生に質問してみても、自分の体や妊娠についての正しい知識が本当にありません。

これを改善するには、やはり教育しかないと思います。自分で学ぶのはもちろん、早いうちからなるべく専門家の話を聞くのがいいでしょう。普段顔を合わせている先生の授業では恥ずかしくて騒いだりする生徒たちも、医学的に揺るがない事実を示す専門家の話はちゃんと聞きます。女性にとっては、自分の体を自分で守ることが非常に重要です。仕事などで忙しいからといって疎かにせず、健康な体を保つことが、妊娠につながっていきます。

ハードル2 結婚

社会としては、教育推進の他に、子宮頸がん検診などの女性医療の啓蒙がとても大事ですね。

第2のハードルは、結婚です。現在の日本では婚外子の割合はたった2%で、「結婚しないと産めない」という考えが根深く存在しています。結婚したいと思っても結婚してない人が多いのも実情です。

原因のひとつは、出会いの問題です。現在の独身者は恋愛において受け身で、男女ともアプローチを待っているだけの状況になっています。当たって砕けるのを嫌がらず、積極的にアプローチして欲しいなと思っています。

そして、最も重要なのは経済的な面の考え方です。多くの女性が働き続けるつもりでいるものの、もし働き続けられなかったら養って欲しいと思っています。しかし、20〜30代の男性の年収は大きく下がり、不安定な雇用形態が増えています。養って欲しい女性に対して養える・養う気のある男性があまりに少ない

結婚ではもう食べていけません

つながっている 仕事・結婚・出産

私は結婚していますが、子供はいません。産まない選択をしたわけではなく、知識不足などで時機を逃がしたという感じでした。だから、皆さんにお伝えすることは、若い時の自分に言っておけたかった内容がベターになっています。

女性にとって、今最も重要なのは仕事です。結婚や出産がうまくいかないのにも、仕事の問題が大きく関わっています。仕事・結婚・出産はバラバラに捉えられがちですが、どれも一人の女性の人生に起こる、連続したものです。

現在、95年生まれの女性の5人に1人が生涯未婚で、3人に1人が一子子供を持たないと予測されています。しかし、女性が働くから子供が産まれないということはありません。スウェーデンなど多くの女性が働いている先進国ほど少子化を脱しています。

私が実施した女子大生へのアンケートでは、多くの学生が「早く結婚して早く産みたい」「仕事を続けたい」と答えました。「バリキャリア」派もワーク

ため、専業主婦を希望すると、相手はまず見つかりません。

専業主婦には、離婚や倒産・リストラ・減給といったリスクがあります。離婚した場合、養育費は8割が受け取っておらず、専業主婦が当たり前だった世代である65歳以上の女性には、離別や死別で一人になると、半分以上が貧困状態に陥っています。やはり、結婚後に一本の軸足だけで立つのは不安定だと思います。

私はいつも「結婚したい人は、まずしっかり仕事をして、自分で食べていける『自活女子』を目指そう」と伝えています。ライフイベントや自分の状況に合わせた形で働き続けるのが一番いいのではないのでしょうか。子育てのために仕事のペースを落とすことはいつでもできますし、子育て前に一生懸命働いた経験は自分の財産になって、後で必ず役立ちます。

ハードル3 仕事と子育ての両立

ライフイベントに合わせた働き方

第3のハードルは、仕事と子育ての両立の困難さです。「勤務時間が合わない」「両立できる雰囲気がない」という理由で仕事を辞める女性が少なくありません。働く女性には何度かターニングポ

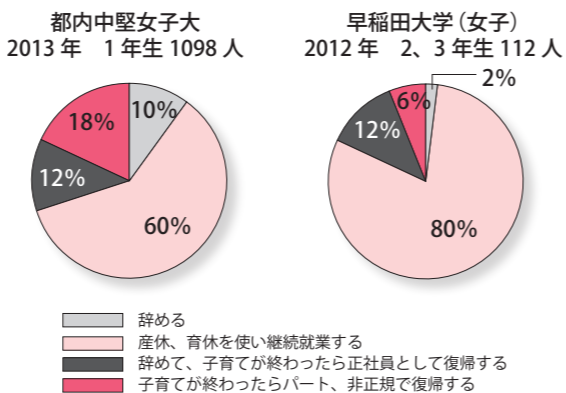
ライフ・バランスを取って細く長く働く「ゆるキャリア」派もいますが、ちゃんと働きたいと思ってるんです。ところが、そんな女性たちも、実際に働き出すと元気をなくしがちです。今の20代にはまだ「父親は仕事、母親は子供が小さいうちは子育て」という家庭で育った人が多いので、両方をやる自分の姿が想像できないのではないかと推測しています。既存のロールモデルはすぎますし、「こせ産んだら男に負ける」という思いもあるでしょう。働くことの必要性がどこか腑に落ちていないんですね。でも、働くことは無駄ではなく、結婚や子育てにつながります。

「働く権利」を使う

さまざまなプレッシャーを受け、「働かされる」と感じている女性も多いことでしょう。しかし、私は「働く権利」というものもあると考えています。働いて自分の財産や老後の生活をつくる権利です。結婚ではもう食べていけない。働くことは最大のリスク回避策であり、子供や社会のためになります。だから、ぜひこの「働く権利」を使っていって欲しいと思います。

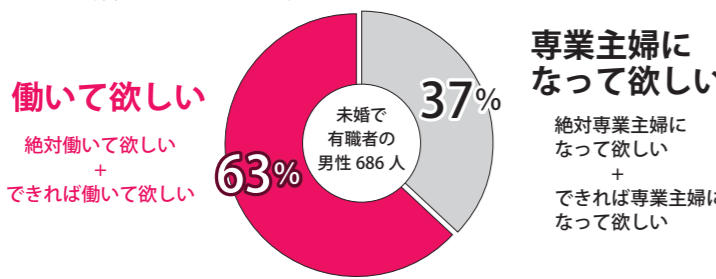
※ バリバリのキャリアウーマン

女子大生の希望〈出産したら仕事は？〉



男子も望む女子の稼ぎ力

あなたの希望として、結婚し出産した後、妻に専業主婦になって欲しいと思いますか？



専業主婦になって欲しい

絶対専業主婦になって欲しい + できれば専業主婦になって欲しい

出典：2010年8月31日「ダイヤモンドオンライン ZoomUp ユーキャン(東京都新宿区)とアイシェア(東京都渋谷区)調べ」